

# 公衆衛生看護技術論

保健師コース必修 開講年次：4年次前期 科目区分：演習 単 位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：本科目では、公衆衛生看護の基本的な概念と地域における看護職の機能と役割を理解し、地域で生活する個人や家族、対象集団の健康課題をもつ事例について看護過程を展開する。さらに、公衆衛生看護活動を実践する際に必要な基本的知識と技術を習得する。具体的には、対象とする健康課題に対して効果的な看護を展開するための技術を身につけるために、授業外課題に取り組みながらグループ演習を中心に進められる。

本科目で身につける技術は、公衆衛生看護活動を実践していく上で基礎となるものである。特に実習で必要とする技術の習得に重点をおいている。

- 到達目標**：①個人・家族の発達課題を踏まえた健康課題を説明できる。  
②対象者が課題解決に取り組み、実践するための支援計画を立案できる。  
③公衆衛生看護の実践に必要な保健指導について、基本的な技術を習得できる。  
④公衆衛生看護の実践に必要な家庭訪問について、基本的な技術を習得できる。  
⑤公衆衛生看護の実践に必要な乳幼児健診について、基本的な技術を習得できる。  
⑥公衆衛生看護の実践に必要な健康相談・特定保健指導について、基本的な技術を習得できる。  
⑦ロールプレイの実施を通して、自己を振り返り、今後の課題を分析できる。  
⑧グループワークにおいて根拠に基づいて積極的に発言できる。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

◎近藤 圭子・櫻井 繭子・田仲 里江

■**授業計画・内容**：

- 第1回 コースガイダンス／家庭訪問 講義（新生児・高齢者）  
第2～5回 家庭訪問アセスメントと訪問計画立案、ロールプレイ（新生児家庭訪問）  
第6回 乳幼児健康診査 講義  
第7～10回 乳幼児健康診査 グループワークによる演習とロールプレイ（4ヶ月児、3歳児健診）  
第11回 健康相談・特定保健指導 講義  
第12～13回 健康相談・特定保健指導 グループワークによるアセスメントとロールプレイ  
第14回 事例検討会（講義・グループワーク）  
第15回 まとめ

\*単元の順序は、一部変更する可能性がある。

■**教科書**：「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」 医学書院

■**参考文献**：「最新保健学講座3、4、5、別巻1」メヂカルフレンド社  
「公衆衛生看護学.jp」インターメディカル社

■**成績評価基準と方法**：定期試験、提出物および授業・演習への参加態度を総合的に評価する。評価基準は下記参照。

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①～⑥	到達目標⑦⑧		
グループワーク後の振り返りシート	◎	◎	積極的に講義・演習へ参加し、グループメンバーと協働できること。 欠席回数に応じ減点する。	10
グループワークのメンバー相互評価	◎	◎		10
プレゼンテーション	◎	◎	聴衆に伝わり、わかりやすいこと。	30
定期試験	◎		授業内容を理解していること。	40
授業外課題の提出物	◎	○	記述内容の適切性。 提出期限が守られていること。	10
出席			2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：公衆衛生看護学概論、保健医療福祉行政論I、公衆衛生看護援助論I、公衆衛生看護援助論II、健康教育指導法、公衆衛生看護学臨地実習I・II

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本科目は、公衆衛生看護学臨地実習での実践に繋がる科目です。各演習では、健康教育指導法や公衆衛生看護援助論I・IIで学んだ知識を基盤にしてアセスメントし、具体的な支援計画を立案していきます。積極的な参加とともにグループメンバーとの良い協働を期待します。習得しなければならない技術項目が多いため、授業外課題の学習も不可欠であり、積極的に学んで本科目に臨んでほしいと思います。